

- ① 明治二十三年の夏の出来事である。
- ② エリスは一週間前の夜、台所で倒れた。
- ③ エリスが気分が悪く物を食うと吐くのは食べ過ぎであると気づいたのは豊太郎である。
- ④ トヨはエリスの妊娠を知って将来に希望を感じた。
- ⑤ その日は火曜日だった。
- ⑥ エリスはストーブの傍に座ってよく話した。
- ⑦ 手紙は相沢の筆跡で日本から出したものである。
- ⑧ 相沢は今朝、山縣（やまがた）大臣に付いてベルリンに来ていた。
- ⑨ 手紙には、相沢が会いたいから来いと書いてあった。
- ⑩ 相沢はトヨに名譽挽回のチャンスを与えようとしていた。
- ⑪ トヨは相沢の手紙を読んでうれしそうに顔を紅らせた。
- ⑫ エリスは、新聞社の報酬を打ち切られる手紙だと思った。
- ⑬ トヨは手紙の内容を正直に伝えた。
- ⑭ 母はトヨが相沢に会うと思い、身交度を手伝った。
- ⑮ エリスは女の勤で自分の不幸な行く末を直感した。
- ⑯ トヨは富貴になることや出世することをキツパリ否定した。
- ⑰ トヨは大臣に会うため行くと言って上等の馬車に乗って出かけた。
- ⑱ エリスは部屋の中で見送った。